

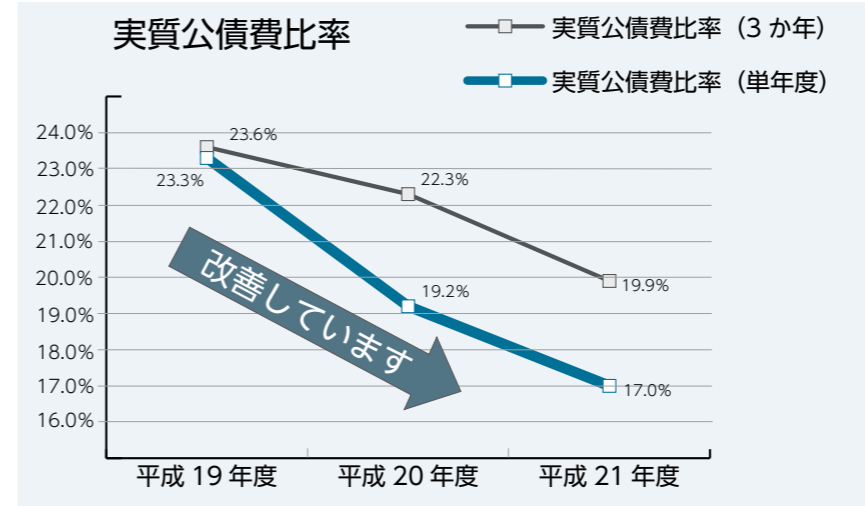
市の財政状況を公表します

健全化判断比率

「地方公共団体の財政健全化に関する法律」に基づき、4つの指標（実質赤字比率・連結実質赤字比率・実質公債費比率・将来負担比率）で市の財政状況を見てみましょう。

市では、将来にわたる「安定・躍進・自立」を目指して財政の健全化に取り組んでおり、成果が着実に表れてきています。今月号では、市の財政状況と平成21年度決算の概要をお知らせします。

《問い合わせ先》
本庁舎財政課
☎221111
内2332



実質公債費比率が大幅に改善！

借金返済額の割合を示す実質公債費比率は17.0%（単年度）となり、安全の目安とされる18%を下回りました。これは借金の繰り上げ返済を積極的に実施したことなどによる成果です。

【健全化判断比率（平成21年度決算）】

| | 内容 | 白河市 | 早期健全化基準 (イエロカード) | 財政再生基準 (レッドカード) |
|----------|---------------------------------|---------------|------------------|-----------------|
| 実質赤字比率 | 一般会計※1を中心とした赤字の割合 | 赤字なし | 12.64% | 20% |
| 連結実質赤字比率 | 一般会計、特別会計※2、企業会計※3のすべての会計の赤字の割合 | 赤字なし | 17.64% | 40% |
| 実質公債費比率 | 年間の借金返済額の割合 | 19.9% (3か年平均) | 25% | 35% |
| 将来負担比率 | 将来負担が見込まれる負債の割合 | 156.3% | 350% | |

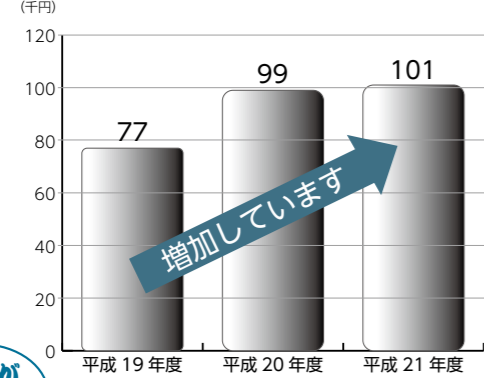
※1 一般会計 教育や福祉、道路整備などを行う、行政の基本的な会計
 ※2 特別会計 国民健康保険や介護保険など、一般会計と区別して設置する事業の会計
 ※3 企業会計 水道など、民間企業と同様に、利用料金などの収益で運営している会計

市の健全化判断比率は、いずれも基準内となっておりますが、まだまだ高い水準にあり、さらなる財政の健全化に努める必要があります。

貯金（基金）

市の貯金は65億6千万円です！

市民1人当たりの貯金（基金）の現在高



ここがポイント！

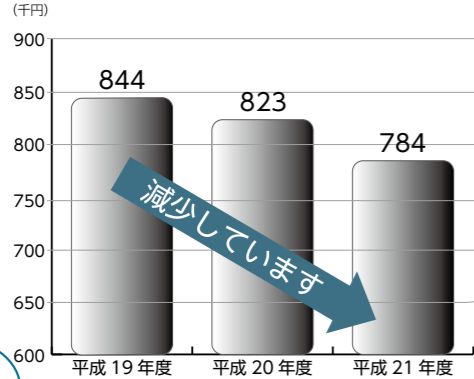
平成21年度末の市民一人当たりの貯金は、平成19年度と比較して、2万4千円増えました。

市では、教育・文化の振興や福祉の向上など、特定の目的に活用するために貯金をしています。平成21年度は、将来の支出に備える「財政調整基金」への3億5千7百万円の積み増しや、借金の返済に充てる「減債基金」の2億1千209万円の取り崩しなどの結果、全体で1億1千768万5千円増加しました。これにより、年度末の貯金残高は、65億6千43万6千円となりました。なお、市民一人当たりで換算すると10万1千円となります。

借金（市債・企業債）

市の借金は508億3千万円（臨時財政対策債を除く）です！

市民1人当たりの借金（市債・企業債）の現在高



ここがポイント！

平成21年度末の市民一人当たりの借金は、平成19年度と比較して、6万円減りました。

道路や学校などの建設には多額のお金が必要になることから、借金を活用して事業を行っています。次の世代を含め、使う人みんなが公平に費用を負担してもらうことが借金をする大きな理由の一つです。平成21年度末の借金の残高は588億700万円で、実質的な交付税である臨時財政対策債を除いた残高は、508億3千万円です。なお、市民一人当たりで換算すると78万4千円となります。

健全な財政運営のために

任意の繰り上げ返済を積極的に行っていきます！

合併前の旧4市村では、借金を有効に活用して社会基盤の整備を進めてきましたが、借金の残高が増え、返済の負担が重くなっていました。財政の健全化を図るためには、大きく借り過ぎた借金の残高を減らすことが重要です。そこで、市では、新たな借金の借入や返済を計画的に行いながら、任意の繰り上げ返済を積極的に実施してきました。平成21年度に行った繰り上げ返済の実績額は14億2千万円で、平成19年度から3年間の合計額は、25億2千万円となりました。これによって、合わせて2億4千万円の利子が節約できたばかりでなく、翌年度以降の返済額が減った分を、市民に密着した別の事業に回して有効に活用することができるようになりました。